



平成 27 年 5 月 8 日

各 位

会 社 名 明 星 工 業 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 大 谷 壽 輝
(コード番号 1 9 7 6 東証第 1 部)
問 合 せ 先 取 締 役 常 務 執 行 役 員 印 田 博
財 務 部 長
(T E L 0 6 - 6 4 4 7 - 0 2 7 5)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社グループは、平成 24 年度を初年度とする前回中期経営計画（平成 24 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）を“明日への希望に向けて前進”のスローガンのもと、「改革、スピード&チャレンジ」を行動指針として、企業価値の向上と社会貢献に取り組んでまいりました。

競争力の強化と海外事業領域の拡大と強化への取り組みに加えて外部環境の好転もあり、計画最終年度につきましては下記のとおり当初目標を達成することができました。

<前回中期経営計画（最終年度）と実績の対比>

(単位：百万円)

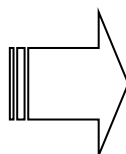
	平成 26 年度	
	計 画	実 績
売 上 高	43,000	46,873
営 業 利 益	3,300	5,711
経 常 利 益	3,250	6,231
当 期 純 利 益	1,650	4,176

当社グループは、従来の経営基盤をさらに強化し、未来への飛躍に向けた第一歩として夢と誇りある企業を目指した中長期経営を実現するため、新たに平成 28 年 3 月期を初年度とする 3 ヶ年の中期経営計画（平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）を策定しました。

計画の概要は次のとおりであります。

1. 経 営 方 針

<p>《 経 営 理 念 》 顧客の創造と信頼の確保 社 会 へ の 貢 献 未 来 へ の 挑 戦</p>
--



<p>《 ス ロ ー ガ ン 》 飛躍に向けて限りなく挑戦</p>
<p>《 行 動 指 針 》 改革、スピード&チャレンジ</p>

2. 経営環境

当社グループを取り巻く事業環境は、建設工事業においては国内の断熱分野は装置産業の統廃合の継続によって、弱含みで推移する見通しですが、装置の延命化等を目的とした保守・維持工事などは需要が期待できると思われま。一方、海外では原油価格動向で投資計画が見直される可能性はあるものの、LNGをはじめとする石油・ガスの開発プロジェクトは続く見込みであります。また、ボイラ事業においても再生可能エネルギーとしてのバイオマス発電所等の建設、国内メンテナンスおよび海外案件は期待できるものと思われま。

当社は平成 26 年 4 月に創業 70 周年の節目を迎えました。企業としての社会的責任を一層自覚するとともに、上記の経営環境を踏まえ、収益力・成長力・技術力の一層の向上を基本方針として、グループ一丸となって経営諸施策を実施することにより、企業価値の最大化に取り組んでまいります。

3. 計画概要

① 企業力の強化

- ・コア事業である断熱・ボイラの技術力・工事施工力をベースとして技術開発を推し進め、差別化を図る。
- ・生産・資材・労務調達の多様化・効率化によるコスト競争力の強化を図る。
- ・グループ各社の拠点を活用し、顧客満足度の向上を図る。
- ・人材の確保・育成、企業風土の醸成、財務基盤の充実・有効化を図る。

② 事業領域の拡大と強化

国内市場の縮小基調に対応すべく国内の既存・新規顧客の深耕と拡大、新たな事業領域の拡大・創出に取り組んでまいります。また、活発化する海外市場に対応すべく、グローバルな事業展開を行ってまいります。

③ 組織基盤の活性化

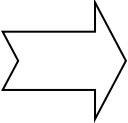
技術・工事施工には、高度な専門性を有する有能な人材が不可欠であり、若手人材の計画的な活用など中長期的な人材の育成およびグローバルな意識の変革に努めるとともに事業環境に応じた弾力的・機動的な組織体制を構築してまいります。

④ 社会的責任の推進

法令遵守や企業倫理の一層の浸透に努めるとともに、経営の透明性を一層高め、企業の社会的責任の強化に務めてまいります。

4. 数値目標（連結業績）

(単位：百万円)

	平成 27 年度		平成 29 年度
売上高	44,000		50,000
営業利益	3,900		4,700
経常利益	4,000		4,800
当期純利益	2,500		3,050

当社グループは受注産業であるため、収益の見通しは容易ではありませんが、この厳しい経営環境の中にあっても収益確保の施策を着実に実行して、ステークホルダーの皆様方への期待に応じてまいります。

以 上